

## ◎生命環境学部

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生命環境学部では、医療や薬品の開発、健康の維持や促進、食料生産や食の安全性、環境の保全や修復、環境分析などの分野に貢献できる人材を育成することを目標にしています。そのため、問題を科学的な方法で思考・判断する能力を有し、問題を解決するために必要な知識と技能を有し、情報を発信する能力と表現力を兼ね備えていることを到達目標にしています。さらに、生命科学と環境科学の知識と技能を総合的に活用することで、周囲と協働しながらさまざまな問題に主体的に対応できる能力を身につけた学生に学士の学位を授与します。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生命環境学部では、生命科学と環境科学の両面から社会に貢献するために必要となる知識と技能を効率的に修得できるように、共通部分となる理系分野の基礎的な内容から、応用生命科学、食品資源科学、環境科学のそれぞれの専門分野の実践的な内容まで、段階的に学修できるように体系的なカリキュラムを組んでいます。さらに、両学科及びコースの間で密接に連携することで、より幅広い知識と技能を修得できるようにしています。

学修成果の評価については、各科目において判断基準を設定し、履修者の到達目標を示した上で厳正に評価します。学期中や学期末に行うレポート・筆記試験、小テスト、課題や実験のレポート、実技試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度など、総合的に評価します。

### 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生命環境学部では、人類社会の福祉に貢献できる人材、人類の生活基盤である環境の保全に貢献できる人材を育成することを基本理念としており、地球規模の問題を解決するグローバルな視点と地域の問題を解決するローカルな視点を合わせ持つ、技術者及び研究者の育成を目指しています。そのため本学部では、生命科学と環境科学の課題について柔軟に思考・判断し、問題解決に必要な知識や技能を積極的に学修し、周囲と協働しながらその問題解決に向けて主体的に努力し、解決策を発信していく熱意と行動力を持った人を求めています。

## ◎生命科学科

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 1 学修成果

##### ●応用生命科学コース

生命体が持つ多種多様な機能の解明やクオリティ・オブ・ライフの向上につながる新たな物質や方法の発見・開発に関心と知識を持ち、積極的に問題の改善や解決に取り組む態度、最適な解決策を思考して判断するための十分な理解力、その解決策を提案して実行する技能、得られた成果や思考を人類の生存や福祉（健康と幸福）のため社会に発信する表現能力を身につけています。

##### 【知識・技能】

- ・生命科学・生物工学の基礎学力を修得し、かつ高度で幅広い専門知識を有している。
- ・専門知識や技術がどのように人類社会で活かされているかを把握している。

##### 【思考力・判断力・表現力】

- ・専門領域のデータや専門文書を理解することができ、基本的な専門用語を用いて知識伝達・情報共有することができる。
- ・生命科学・生物工学に関する研究を実践し、情報の収集、結果の分析や考察を通してその成果をまとめ、発表することができる。
- ・主体的かつ継続的に学ぶことの重要性を理解している。

##### 【主体性・協働性】

- ・物事を科学的根拠に基づき判断することができ、深くかつ多面的に洞察する態度や独創性を重んじる姿勢を身につけている。
- ・問題・課題に対して他者と協働しながら主体的にその解決に取り組むことができる。

##### ●食品資源科学コース

人類の生存と健康の維持に欠かせない食品資源の利活用と創成に関してグローバル社会が抱える問題に関心と知識を持ち、改善や解決に導く積極的な態度、最適な解決策を思考して判断するための十分な理解力、その解決策を提案して実行する技能、望ましい食品資源のあり方を考察して社会に発信するための表現能力を身につけています。

##### 【知識・技能】

- ・食品と生物資源の遺伝学的、生理・生化学的さらには生態学的な分析と評価を行うために必要な技能や知識を修得している。
- ・食品と生物資源の生産安定化技術、流通システムに関する理論を修得している。
- ・機能性食品の開発や6次産業化に関する知識を修得している。

##### 【思考力・判断力・表現力】

- ・専門領域のデータや専門文書を理解することができ、基本的な専門用語を用いて知識伝達・情報共有することができる。
- ・食品と生物資源の創成・利活用に関する知識のみならず、生命科学や環境科学の基礎知識を総合し、柔軟に活用することができる。
- ・食品と生物資源に関する分野の課題を発見し、多様な視点で課題を捉え、新たな手法の修得や開発により解決に導く能力を身につけている。
- ・主体的かつ継続的に学ぶことの重要性を理解している。

##### 【主体性・協働性】

- ・物事を科学的根拠に基づき判断することができ、深くかつ多面的に洞察する態度や独創性を重んじる姿勢を身につけている。
- ・個人や共同体、地域とのコミュニケーション（情報発信、プレゼンテーション、相互理解）を行うことができる。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 1 専門教育科目の編成方針

##### ●応用生命科学コース

応用生命科学コースでは、生物学・生命科学を基盤とした科目群を配置し、生命現象や生体機能を理解するために必要な知識を基礎から応用へと段階的に身につけていくとともに、演習・実験科目を通じて自ら考え、実践し、問題を解決へと導く能力を養成するためのプログラムを提供します。

##### (1) 専門基礎科目

高等学校で履修した主要理数系科目を、大学専門教育を受ける上での基盤として捉え直し、基礎的知識、技能を身につけるための科目を1年次に配当します。

##### (2) 基幹・学科共通科目

専門基礎科目の基盤の上に展開される科目群であり、主に2年次に配当します。食品資源科学コース、環境科学科いずれのコース・学科にも関連する基幹科目と、生命科学科の専門教育への入門的科目からなる学科共通科目を配置します。

##### (3) コース専門科目

専門基礎科目、基幹科目、学科共通科目の上に生命科学に関する幅広い知識と技術を身につけるための科目を配置します。

応用生命科学コースで学ぶ上での基幹をなす科目、より特色のある専門性の高い応用的な科目、生命科学の基幹をなす技術を身につけるための実験科目で構成され、2、3年次に配当します。

##### (4) 卒業論文

3、4年次の2年間に配当される必修科目。生命科学に関する研究課題に取り組み、研究の立案、実施、取りまとめを行って論文を作成します。論文作成により、生命科学に関するより深い理解、知識や洞察力、専門的技術を身につけます。

## ●食品資源科学コース

食品と資源にかかわる遺伝学、生理生化学から生態学にいたる教養や知識をもとに、それらの生産、加工から流通まで、また、食料や環境、社会経済問題にわたる広範で総合的な理解力と問題解決能力を身につけます。さらに、食品資源の創成や利活用を通じて、人類の健康にかかわる技術と資格を取得するための科目並びに実験・演習の機会を提供します。

### (1) 専門基礎科目

高等学校で履修した主要理数系科目を大学専門教育を受ける上での基盤として捉え直し、基礎的知識、技能を身につけるための科目を1年次に配当します。

### (2) 基幹・学科共通科目

専門基礎科目の基盤の上に展開される、幅広い知識を身につけるための生物学や化学を基盤とした専門科目で、2年次に配当します。

### (3) コース専門科目

専門基礎科目、学科共通科目を学んだ上で食品資源科学に関する専門的な知識と技術を身につけるための科目群です。食品資源科学系で学ぶ上での基幹をなす科目、より特色のある専門性の高い応用的な科目及び食品資源科学の基幹をなす技術を身につけるための実験科目で構成され、2、3年次に配当します。

### (4) 卒業論文

3、4年次の2年間に配当される必修科目です。食品資源科学に関する研究課題に取り組み、研究の立案、実施、解析、考察を行って論文を作成するとともに、発表会で決められた時間内で発表して質疑応答を受け、ディスカッションやプレゼンテーションの技能を修得します。また論文作成により、食品資源科学に関するより深い理解、知識や洞察力、専門的技術を身につけます。

## 2 専門教育科目の特色

### ●応用生命科学コース

生命科学の基礎から応用にいたるまでの充実した総合的な教育を通じて基礎学力を養いつつ、生命科学に対する関心をさらに深め、生命科学に関連する諸問題の発見や解決へと導くための学力と技術、そして思考能力を育成していきます。これらのカリキュラム履修を通して、医薬、医療、化粧品、健康、バイオ産業などの幅広い分野で技術者・研究者として活躍するための基本的な素養を身につけることができます。

#### (1) 生命科学の基礎から応用にいたるまでの充実した総合的な教育

応用生命科学コースには、コース教育の根幹にあたる「学科共通科目群」と、より特色のある専門性の高い「コース専門科目群」の2つの科目群を設け、基礎から応用にいたるまでの一貫性を持った体系的な教育を行います。また、3、4年次の2年間で実践的研究課題を設定した卒業論文や科学英語においてコース教員が専門的英語教育も含めたきめ細かい指導を行います。

#### (2) 基礎科目・演習科目・実験科目を重視した教育

学生の基礎学力の涵養(かんよう)と創造性を養うため、基礎科目と演習科目、実験科目を充実させ、体験的に裏付けられた科学的な素養の修得と、知識に偏重しない真の実力を身につけることを目指します。

#### (3) 他コース・他学科との連携をふまえた教育

食品資源科学コース及び環境科学科との共通科目の設定を行い、食品機能や植物資源、環境問題など応用生命科学コースと他コース・他学科との関わり合いを学ぶことで、より幅広い視野を持った人材育成を目指すと共に、学際的な領域における知識や思考の修得が可能です。

#### (4) 大学院への進学を視野に入れた教育

大学院での技術者・研究者を養成するカリキュラムに対応できる基本的知識の修得や研究経験を、3、4年次に行う専門教育科目や卒業論文を通じて養成することを目指します。

### ●食品資源科学コース

食品資源に関する課題に対する正しい知識を身につけて関心を高め、課題の解決に積極的に取り組む意欲と正しい情報を発信する力を育成するために、以下のように科目を配置しています。これらのカリキュラムの履修を通して、食品産業や自治体の農業系あるいは食品流通産業などで活躍できる能力を身につけることができます。

#### (1) 実験・演習を1年次から取り入れて基礎技術を修得した後、より専門的な知識を体系的に学んでいきます。

#### (2) フィールドを活用しながら食品資源の開発・育種と機能評価、生産安定化技術、加工と利活用並びにそれらの流通と社会普及を一貫して学ぶ実践的教育プログラムを提供します。

#### (3) 遺伝子工学的手法など先端科学による新しいアグリバイオ技術、環境、社会経済問題、国際関係に関する知識を修得できます。

#### (4) 応用生命科学コースや環境科学科との密接な連携をふまえた教育を行います。

#### (5) 公務員受験や教員免許(理科)、食品衛生管理者及び食品衛生監視員などの公的資格取得を目指す科目を配置します。

## 3 学修成果の評価

学修成果については、コースカタログ・シラバスに提示した配点割合に従い、ディプロマ・ポリシーに示した「知識・技能」における専門に必要な理論と技能、「思考力・判断力・表現力」における情報収集、結果の分析及び情報発信、「主体性・協働性」における課題解決に取り組む姿勢などについて、各科目において判断基準を設定した上で厳正に評価します。各科目における評価方法は、学期中や学期末に行う筆記試験、小テスト、課題や実験のレポート、実技試験、プレゼンテーション、能動的な学修における貢献度・主体性などを組み合わせることにより、多面的な判断基準に基づいて学修の到達度を評価します。

## 1 基本理念

生命科学の学問体系はこれまで細分化されていた分野を融合する方向にシフトしています。近年、先端的な技術の発展、新しい現象・原理の解明が進み、幅広い諸技術を融合させたバイオテクノロジー領域の発展がますます期待されています。生命科学科では、生命体の分子・細胞レベルから個体レベルまでの総合的な教育を行い、医療、健康、食料などの問題解決につながる研究を通じ、「地域産業の再生と新規産業の創成」に寄与し、人類社会の福祉に貢献できる人材の育成を目指します。

## 2 人材育成目標

2年次からコースを選択します。

### ●応用生命科学コース

生命現象や生体機能の解明と応用は、医薬、医療、健康、バイオ産業など幅広い分野に新たな科学的知見と可能性をもたらす、人類の生存や繁栄に大きく貢献する力をもっています。応用生命科学コースでは、生命科学・生物工学に関連する諸問題を解決へと導くための学力と技術、そして思考能力を兼ね備えた技術者あるいは研究者を目指す人を受け入れることを基本とし、産業のさらなる発展や新たな成長分野の創成に寄与し、人類の生存や福祉（健康と幸福）へ貢献できる人材の育成を目指します。

### ●食品資源科学コース

食品資源は人類の生存と健康の維持に欠かせないものであると認識し、かつ、食品、生物資源、環境問題に関心を持ち、社会が抱えるさまざまな問題を解決しようとする意欲あふれる学生を受け入れることを基本とし、食品や生物資源に深くかかわる産業の創成と発展に貢献する人材の育成を目指します。

## 3 求める学生像

### ●応用生命科学コース

- (1) 生命科学・生物工学に強い関心を持ち、生命機能の解明や新規生物資源の探索とその応用による社会貢献に興味のある人
- (2) 医療・医学分野への貢献、医薬品・化粧品・健康食品の開発、生命現象や新規生物資源の探索とその応用に関わる研究に興味がある人
- (3) 将来、医療や医薬などのライフサイエンス、バイオサイエンス分野に関わる仕事をしたいと考える人
- (4) 実験や研究によって自ら問題を解決し、新しい発見・発明を目指す知的探求が好きな人
- (5) 大学院に進学し、高度な能力と技術を身につけようとする人

### ●食品資源科学コース

- (1) 食と健康に強い関心を持ち、食品資源の専門的知識・技術によって人類の生存や福祉へ貢献する意欲がある人
- (2) 生命科学や社会経済の知識を積極的に吸収し、科学技術の発展を通じて社会に貢献しようとする技術者・研究者を目指す人
- (3) 柔軟な思考と実践力を身につけ、地域や国際社会が抱える多様な問題に対し粘り強く果敢に立ち向かい解決しようとする人
- (4) 実験や研究によって自ら問題を解決し、新しい発見・発明を目指す知的探求が好きな人
- (5) 大学院に進学し、高度な能力と技術を身につけようとする人

## 4 入学者選抜の基本方針

次の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

### 【知識・技能】

- ・高等学校までに履修する国語、数学、外国語、理科について内容を理解し、基本的な知識、学力を有している。
- ・科学的な物事に関心を持ち、多面的かつ論理的に説明することができる。

### 【思考力・判断力・表現力】

- ・自分の意見や考えを口頭や文章で的確に表現し、伝えることができる。

### 【主体性・協働性】

- ・能動的に学ぶ姿勢・意欲をもち、向上心をもって物事に取り組むことができる。
- ・生命科学、農業、食品に関わる諸問題に深い関心を持ち、積極的に社会や地域に貢献する意欲がある。
- ・他者と協力して問題の解決に取り組むことができる。

### 【一般選抜（前期）】

高等学校で履修した主要教科・科目についての学力を評価するため、本学の個別学力検査（数学、理科）と大学入試センター試験（5教科7科目）を課し、これらの結果を総合して選抜します。

### 【一般選抜（後期）】

高等学校で履修した主要教科・科目についての学力を評価するため、本学の個別学力検査（数学、理科、外国語）と大学入試センター試験（5教科7科目）を課し、これらの結果を総合して選抜します。本入試では、個別学力検査の結果を重視します。

### 【推薦入試】

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では、志望動機、生命現象に対する問題意識、意欲、論理的思考、表現力などを総合的に判断し、点数化して評価します。なお、合格者に対する入学前学習として、大学入試センター試験を利用します。

**[社会人特別選抜]**

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では、志望動機、生命現象に対する意識、勉学意欲、論理的思考、表現力などを総合的に判断し、点数化して評価します。

**[帰国生徒特別選抜]**

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では、志望動機、生命現象に対する意識、勉学意欲、論理的思考、表現力などを総合的に判断し、点数化して評価します。

**[外国人留学生特別選抜]**

小論文と面接及び日本留学試験の結果を総合して選抜します。また、TOEFL 又は TOEIC のスコアを参考にします。面接では、志望動機、日本社会、文化に対する理解、幅広い基礎学力、生命現象に対する意識、勉学意欲、論理的思考、日本語の表現力などを点数化して評価します。